

ジャパンマテリアル(三
重県三重郡、田中久男社
長)は、カナダMuxLab
社(マックスラボ)の
新製品「4K30P
対応HDMI/3G
SDI 17・3インチモ
ニター(型番:MUX-
PV500842)」(1画
像)の発売を開始した。
価格はオープンだが、市場
想定価格は21万5000

ジャパンマテリアル、プレビューモニター発売 HDMI・SDI・DVI-I・コンポジット入力可能



同製品は、HDMI、SDI、DVI-I、コンポジット入力に対応したIPS液晶ディスプレイ搭載のプレビューモニター。小型ながら高精細映像の表示が可能であり、放送・映像制作現場での使用を想定した堅牢な筐体設計を採用している。

19インチ・7Uラックスペースに対応した17・3インチIPS液晶ディスプレイ搭載のプレビューモニター。HDMIは最大4K30P、SDIは最大3GSDIの入力に対応。さらにDVI-I、コンポジットビデオ、音声入力にも対応している。堅牢な筐体設計と省スペース性も兼ね備え、放送・配信中継車、イベント会場などのプロフェッショナルな映像制作環境に最適という。19インチ・7Uラックスペースに対応しており、標準的なラックマウント設置が可能。背面にはVESAI100×100mmのネジ穴を備え、市販の金具を使用することで壁掛けやスタンド設置にも対応する。



POLAR MK2 Series

◆ヒビノ、新PAシステム発売(東京都港区、日比野久社長)は、ビジネス推進部「FULLTENTEN」は、HKAUDIO(エイチケイオーディオ)のパワードPAシステム新商品「POLAR MK2 Series」の販売を2025年6月30日より開始した。POLAR MK2 Seriesは、イベント、ライブ、セミナー等に必要な機能を全て搭載し、簡単操作で大好評を得ていたポータルPAシステムPOLAR 10/12のリニューアルモデルとなる。今回のリニューアルで、パワースタックと高域用コーンポジットの入力信号に対応する。また、ルーブアウト端子もHDMI、SDI、コンポジットに1系統ずつ搭載しており、同一入力信号をバスルー出力できる。センターマーカー、表示エリア領域、モノクロ表示、フォーカスアシスト、アスペクト比切り替え、画面反転・フリーズ、色温度設定など、シーンや用途に応じた細やかな調節が可能。



また、SRTを使って超望遠対応セキユアIP監視システムも提案した。放送局等で使われる放送品質情報カメラステムを、高画質テュアルコース監視システムとして提供する。

8K技術と業務用ワークステーション(W)を駆使して、キズを検出するデモを行った。シルバードリックスに塗装された板を、蛍光灯下で見てもキズは一切見えないが、比較的

アストロデザイン 8K技術とWSを駆使してキズを検出 AIアシスト搭載アーカイブサーバーも

アストロデザイン(東京都大田区、難波豊明社長)は「PRIVATE SHOW 2025」を6月18日(20日)18日は招待者限定で開催した。前回は注目の製品をいくつか紹介する。

「SRT(Secure Reliable Transport)」は受ける側と送る側の独自のIPアドレスを付けており、パッファースイッチに設定してはユーザに設定できる。パッファースイッチは、パケロスが起きるときに、それを補完する役目を果たす。そのため、低遅延でパケロスに対しても耐性が高いことなどから、注目を浴びているIPのプロトコルだ。

このSRTの伝送装置が「TR-5004」の暗号化により公衆回線でもセキュアに伝送が可能。映像・音声・TALLY・カメラ制御信号をIPで伝送可能。また、SDカードへのローカル録画・再生もできる。

また、発売時期は未定だが、SRT対応IPマルチビジョン「MV-2200-SRT(仮)」の開発も進めている。オンプレでSRTフォーミングIP映像のマルチビジョンモニター2台を接続可能になり、100GBイーサネットポートを2ポート搭載、HD解像度SRTストリーム16画面以上の入力・表示に対応する。

波長が長い可視光を当ててみるとキズが見える。また、8Kモノクロセンサーで見るとまた見え方が変わる。また、8Kカメラだと距離を取って撮影するのにもメリット。塗装検査用のシステムはすでに市販のものがあるが、それは非常に近づいて使用が必要がある。8Kカメラは離れたところでも撮影でき、キズも探ることができる。

8Kメディアサーバーを3機機紹介した。「AS-8930」は、再生機で、収録はできない。「AS-8940/8950」は、いずれも再生・収録機だが、AS-8950は脱着SSD対応により容量を増やすことができる。

8KとHDは複数の非圧縮映像の記録・再生が可能。10種類以上の非圧縮静止画の連番ファイル再生に対応する。最新のUSB3・2 Gen2x2(20Gbps)を採用し、高速なデータ転送速度を実現する。最新の10Gb Ethernetを採用し、高速なデータ転送速度を実現。業務用/放送用映像機器として運用可能な複数台での同期運用が可能。

この他、AIアシスト搭載アーカイブサーバー「Intelligent Archiver」も紹介した。同サーバーは、日付や時刻が不明でも、関連キーワードを入力すればCE-LLMが解釈し、候補映像を表示する。さらに、詳細な状況がわからない場合でも、ターゲットの情報があれば検索可能。検索結果が複数ある場合は、必要に応じて画像・映像としてダウンロードできる。

サーバーにはシャープ独自のエッジAI技術「CE-LLM(Communication Edge LLM)」を搭載している。CE-LLMは、エッジ端末での自然音声対話機能、誰でも簡単に声だけで使用可能。抽象的な指示や複雑な指示を解釈して検索を実行できるなどの特徴も有する。

専用ソフトのインストール不要で、特別なセットアップなしで、アプリケーションのインストールが制限された環境でも使用可能。さらに、ブラウザでアクセス可能なため、特別なセットアップなしで、アプリケーションのインストールが制限された環境でも使用可能。

果の録画を視聴でき、必要に応じて画像・映像としてダウンロードできる。サーバーにはシャープ独自のエッジAI技術「CE-LLM(Communication Edge LLM)」を搭載している。CE-LLMは、エッジ端末での自然音声対話機能、誰でも簡単に声だけで使用可能。抽象的な指示や複雑な指示を解釈して検索を実行できるなどの特徴も有する。

「テレビ標準方式を巡るメガ論争⑤」

第3部 テレビ放送波 乱の幕開け(昭和26年)



=112=

しかし、この聴聞では、無線通信機械工業会の立場は別で、主張はきわめて具体的であった。無線通信機械工業会を代表する立場で冒険陳述に起った高柳健次郎氏は、みずから研究体験、アメリカをふくむ諸外国の実情等を詳らかに紹介したあと、「もともと理想的な標準方式を作るためには拙速があつてはならない」と述べ、「工業会としては、方式を決定するに当たっては次の七項目が中心と考へている」と提唱した。

①映像の品質が十分高く、長く実用に耐えること②送像及び受像機の整備と設備および維持費が低廉であること③チャンネルの幅がなるべく広いこと④将来、国際的プログラマ交換が容易であること⑤日本の工業技術レベルを向上育成し、海外に輸出しその繁栄をもたらすものであること⑥開始にあたり諸外国、とくにアメリカの技術導入の便宜のあること⑦カテゴリーに移行する場合の支障とならないこと。特に受像機製造業者の立場からいえば、受像機が低廉であること。以上がその基本である(第113回に続く)

つなぐ。つながる

紙とITが
つながる

新聞、機関紙、パンフレット、チラシなどの紙媒体やウェブサイト、Facebook、Twitter、Instagram、YoutubeなどのITメディア。そして、それらを組み合わせる効果的な情報伝達方法を見出します。

人と人が
つながる

世界に広がる戦争やテロ、差別、政治・経済・宗教などの違いを超え、人と人とのつながりがどうした社会のゆがみを是正するに。情報メディアは人々の声を正確に的確に伝え、人と人をつなぐ大きな力を作ります。

地域と地域が
つながる

東日本大震災と原発事故、熊本地震などさまざまな災害は人々の暮らしとコミュニティを壊しました。日々の穏やかな暮らしを失った被災者の方々に、日本全国は手を合わせ、他国からの支援も広がり、地域を超え、国を超えて、被災地の状況を支援する希望を生んでいます。被災地の状況を支援する希望を生んでいます。被災地の状況を支援する希望を生んでいます。

会社と社会が
つながる

小さな会社、大きな会社—その規模を問わず、会社の経営活動は社会につながっています。どんなに小さな会社でも、よりよい社会づくりにつながっていることを心にためて、利用する人たちの気持ちに寄り添ったものづくりに努めます。

過去と未来が
つながる

1945年8月15日、第二次世界大戦に敗戦し、多くの大切な命を失い、焦土と化した国土。私たち日本人はこの日を平和で豊かな社会へのスタートの日とし、今日まで復興・発展に努力してきました。株式会社きかんしは1949年9月1日創立。人々がいつまでも平和で豊かな社会の下で暮らせるようとの思いを理念として、今日まで情報メディアセンターとしての役割を担ってきました。

お客様ときかんしが
つながる

今から70年前、平和を願い、民主主義社会を求める多くの人々との願いをもとに日本機関紙印刷所は創立しました。創立当初は主に機関紙とビラの印刷で、よりよい社会をつくる運動に協力。その後は、メディアの多様化に伴って、ありとあらゆる情報・宣伝媒体の制作に取り組みました。お客様の事業と運動のお役に立つ、それが株式会社きかんしの存在価値です。

きかんしの製品一例です

新聞・機関紙
冊子・パンフレット
WEBサイト
年表・自費出版
書類の管理、
お悩み相談
文書電子化
名刺・小物印刷
店頭ポップ
各種企画グッズ

お客様のご要望にお応えするために…
何でもご相談ください

おかげさまで75周年
株式会社
きかんし
https://www.kikanshi.co.jp/

【本社】
〒135-0053 東京都江東区辰巳2-8-21
TEL 03-5534-1234(代) FAX 03-5534-1235(代)
【埼玉メディアセンター】
〒330-0062 埼玉県さいたま市浦和区仲町3-2-24品ビル2F
TEL 048-824-7005 FAX 048-824-7025